

個を高める確かな学力の育成

～算数科における主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくり～

I 研究の内容

1. 授業づくり

(1) 指導主事を招聘しての学習会（6 / 3）

「算数科における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」

講師：山梨県総合教育センター 笠井 さゆり 副主幹・指導主事

(2) 研究授業及び研究会（11 / 25）

第6学年算数科「円の面積の求め方を考えよう」 授業者 畠山 忠教諭

講師：山梨県総合教育センター 笠井 さゆり 副主幹・指導主事

(3) 一人一実践授業及び振り返り

- ・ 10 / 8 第3学年 授業実践「まるい形をしらべよう」
- ・ 10 / 16 たけのこ学級 実践授業「分数のたし算・ひき算を広げよう」
- ・ 10 / 23 第4学年 研究授業「計算のきまり」
- ・ 10 / 27 第5学年 授業実践「分数のたし算・ひき算を広げよう」
- ・ 11 / 12 たけぶえ学級 授業実践「重さをはかってあらわそう」
- ・ 11 / 20 第1学年 授業実践「ひき算」
- ・ 11 / 30 わかたけ学級「お店屋さんの計算のしかたを考えよう」

2. 学習集団づくり

(1) 学習規律の確立に向けた取り組み

ア「玉宮小学校 学習のルール」の確認・全校での取組

イ「学習のきまりふりかえりシート」を使つての自己評価・改善に向けての取組

(2) K13法を使ったhyper-Q-Uの分析と対策

3. 学習環境づくり

(1) 家庭学習チェックシートを活用し、児童の実態・保護者の意識を把握する。

(2) 家庭学習の充実に向けた取り組み

ア 玉宮小「家庭学習の手引き」の見直しと作成

イ 「こつこつバンク」の見直しと作成

ウ 自主学習掲示コーナーの工夫

4. その他の取り組み

(1) プログラミング教育学習会（講師：畠山 忠教諭）

(2) NRT検査の分析と対策

(3) 令和2年度新教育課程還流報告

(4) 各種学力調査を踏まえた授業改善について

II 成果と課題

1. 授業づくりに関わって

算数科において、問題解決型学習の中にどのような仕掛けを仕組みれば、主体的・対話的で深い学びとなり確かな学力が育成できるのか、指導主事を招聘して学習会を行ったり、お互いの授業を参観し合ったりすることで模索してきた。授業後には、振り返りの時間を設け、本時のめあては達成できていたか、どのような仕掛けによって主体的・対話的で深い学びとなっていたか、ほかにどのような仕掛けが考えられたのか、意見を出し合い授業改善につなげた。

その結果、身近な話題から取り上げたり、子どもの素朴な疑問を取り上げながら「問い」を作ったりすることで、児童が主体的に学習に向かうことができた（問題提示のしかけ）、集団解決の場面で、机間巡視しながら子どもたちの反応をつかみ、どの反応から取り上げるか考え意図的に指名したことで、様々な考えに気付くことができた（指名のしかけ）、子どもたちの考えをカードに書き、整理したことで深い学びにつながった（板書のしかけ）等、しかけの有効性が確認された。

一方で、子どもの反応に対して、どのような問い返しをすることによって、子どもの思考を引き出し深い学びに導くことができるのか（発問のしかけ）、児童のつぶやきや考えをどのようにして板書に残していくか（板書のしかけ）、子どもの言葉を使ってどのようにまとめていくのか（まとめのしかけ）等、課題も挙げられた。

今後、学びの質を高め「確かな学力」が育成できるよう、子どもたちの反応を具体的にイメージし、どのような場面でどのような仕掛けを仕組みていくのか、さらに工夫して授業づくりを進めていくことが重要である。

2. 学習集団づくりに関わって

年2回のQ-Uアンケートの結果を活用しての集団づくりに取り組んできた。Q-Uアンケートの結果を、K13法を使って全職員で分析・対策を行うことで共通理解が図られ、日々の児童観察や生徒指導、声掛け等に活かされた。

また、学習規律の確立に向けて、年度始めに「玉宮小学校 学習のきまり」を確認し、全学年で取り組んできた。定期的に児童が自己評価することで、児童の意識付けや教師側の指導に活かすことができた。学習規律の定着にはまだ課題が残されているので、今後も継続して取り組んでいくことが大切である。

3. 学習環境づくりに関わって

家庭学習の充実に向けて、家庭学習の手引き、こつこつバンクの見直しと作成、自主学習掲示コーナーの工夫、家庭学習チェックリストの実施（年2回）等、取り組みを進めてきた。家庭学習チェックリストでは、児童の実態や保護者の意識を把握し、改善に向けての取り組みを考えたり、保護者に結果を伝えたりすることで、学校と家庭で共通認識を図ってきた。

その結果、ほとんどの児童に家庭学習を習慣化させることができた。また、自主学習において、自主学習ノートを担当だけでなく管理職に見ていただきコメントしていただいたり、こつこつバンクを見直したりすることで、児童の意欲を高めることができた。しかし、自主学習の内容のレベルには個人差があるのが実態である。今後、個に応じた支援をしたり、自主学習の進め方を工夫したりすることにより、学習内容の向上を目指していきたい。

III 成果物

- ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業案
- ・家庭学習の充実に向けて（「家庭学習の手引き」「こつこつバンク」）
- ・学習規律の確立に向けて（「玉宮小学校 学習のきまり」）
- ・「プログラミング学習会」資料

（研究主任 青木 恵）